

## 勤労者による座談会

### 「子育て世代のワーク・ライフ・バランスを考える」 ～ただいま子育て真っ最中～

開催日：平成22年2月10日（水）

場 所：宇都宮市役所 14A会議室

#### 【コーディネーター：司 会】

NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事 岩井 俊宗 氏

《プロフィール》

【年齢】：30代【勤務地】：宇都宮市内【主な仕事の内容】：事務職

【働き方】共働き（妻：常勤）【子どもの人数】1人 5ヶ月：男の子

#### 《参加者プロフィール》

	Aさん(30代男性)	Bさん(40代男性)	Cさん(30代男性)	Dさん(30代女性)	Eさん(40代女性)
職業	団体職員	会社員	公務員	会社員	会社員
勤務地	宇都宮市内	宇都宮市内	宇都宮市内	宇都宮市内	東京都
主な仕事の内容	営業職	報道関係	事務職	事務職	営業職
働き方	片働き (妻：専業主婦)	共働き (妻：常勤)	共働き (妻：常勤)	共働き (夫：常勤)	片働き (1人親家庭)
子どもの人数	2人 4歳：男の子 (幼稚園年少) 2歳：男の子	2人 3歳(男の子) 双子 (保育園2歳児 クラス)	2人 11歳：女の子 (小学5年生) 9歳：男の子 (小学校3年生)	2人 7歳：男の子 (小学1年生) 4歳：女の子 (保育園年中)	1人 7歳：女の子 (小学校1年生)

#### 《座談会録》

司 会：みなさん、こんばんは。お集まりいただきましてありがとうございます。まず、今日の座談会の流れを確認したいと思います。ワーク・ライフ・バランスの中にも実は、いくつかの要素があります。その中で、本日は、**子育てを1つのキーワードとして、仕事をしながら、子育てできる環境について考えていきたい**と思います。

みなさんと一緒に、「**こんな働き方があったら良いな。**」とか、「**自分はこんな働き方をしてきた。**」という話をしていきたいと思います。

それでは、それぞれ自己紹介をお願いいたしますが、自己紹介の中で、氏名と職業、共働きか片働きか、子どもの人数と年齢を含めて1人あたり2、3分で自己紹介をお願いいたします。

では、はじめに私から自己紹介をさせていただきます。

私は、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房で働いています。

主な仕事は、NPOやボランティアグループなどの支援ですが、それ以外で、行政の対応が難しいケースの市民の困り事相談などにも取り組んでいます。私の家族の状況ですが、平成21年9月に男の子が生まれ、妻は、現在育児休業中です。

まさに今、仕事と家庭の両立が私のテーマだと思っているところです。

## ▼自己紹介▼

Aさん：私は、農業関係の団体職員で、2児の父親です。妻は専業主婦で、同居の親が中心となって農業を営んでおり、仕事が休みの時や収穫時期など農業の手伝いをしています。

Bさん：私は、報道関係の仕事をしています。3歳の双子の父親です。我が家は、共働きをしており、妻は同じ会社に勤めています。子どもが生まれた時、妻が育児休業を8ヶ月間、私が3ヶ月間取得しました。子育てに関して、妻との間に一定の役割分担はありますが、夫婦で同じ仕事をしているので、互いの仕事の状況に応じて保育園の送り迎えなどを行っています。

Cさん：私は、公務員で小学生2人の父親です。我が家も共働きをしており、妻も公務員です。うちの場合は、子育てに関して、妻と私の明確な役割分担はなく、夫婦互いの仕事の状況に応じて、子どもの学童保育の迎えなどに対応しています。

Dさん：私は、会社員で2人の子を持つ母親です。子どもの保育園や学童保育の送迎は主に私の役割ですが、夫も私の仕事の状況に応じて柔軟に対応してくれます。

Eさん：私は、営業職の仕事をしており、東京都内で働いております。子どもは小学1年生が1人で、母子家庭です。宇都宮の小学校に通っているのですが、学童保育を利用したり、相互に助け合える友人の輪を広げ、子育てと仕事を両立しています。

司 会：ありがとうございます。本日お集まりの皆さんに自己紹介をしていただきましたが、自己紹介を受けて、何か聞いてみたいことなどがあればお願いいたします。

Cさん：Eさんが東京に通いながら、子育てをしているのが、大変だと思いました。

Eさん：私は、2年前まで東京に住んでいましたが、東京で子育てするのは大変だという思いもあり、以前に働いていたことがある宇都宮市に引っ越して来ましたが、結局は仕事で東京に通うことになってしまいました。

Bさん：仕事が遅くなった時は、お子さんはどうしているのですか。

Eさん：今は、母子家庭の友達とネットワークが出来たので、どうしても遅くなる時には、

友達に預かってもらっています。

**司 会**：母子家庭のネットワークということですが、友達同士お互い助け合う形ができて  
いるのですね。

Eさん：お互い助け合って、泊りでも子どもを預かります。良いシステムが友達同士でや  
っと出きるようになったところです。

Bさん：どのようにネットワークができたのですか。

Eさん：以前、宇都宮で働いていた時の職場の同僚や同じ学校の学童保育の母子家庭のお  
母さんが多いです。とてもありがたくて、本当に感謝しています。

**司 会**：母子家庭の方が仕事と子育てを両立していくことは、大変と聞いておりますが、  
支え合うというのはとても良いなと思います。

Eさん：東京だとあまり支えあう状況がなかったので、とても困っていました。

**司 会**：子どもを預けるだけではなく、共感できる部分のあるつながりは、とても良いつ  
ながりだと思います。

Dさん：親に預けるのが難しいこともあります。子育てについて共感できる仲間がいると  
いうことは大切ですね。

Eさん：子どもを預かるというのは大変ですが、預かった子どもと自分の子どもを遊ばせ  
ると、子ども同士、とても楽しいようです。

Cさん：ネットワークが広がっていけば素晴らしいですね。

Eさん：最近の話ですが、4世帯一緒にサーカスへ出かけることになった時、あるお母さ  
んの都合が悪くなってしまったのですが、「お子さんだけでも。」と思い、一緒に  
連れて行きました。お互い支えあう関係ができています。

**司 会**：メンバーとか募集をしていますか。

Eさん：お互いに助け合える気持ちをお持ちの方であれば、どなたでも歓迎です。実家の  
ない人もいたので、みんなで助け合っていけたらいいなと思っています。

## ▼ワーク・ライフ・バランスについて▼

**司 会**：ここで、ワーク・ライフ・バランスについて、少しお話をしたいと思います。

**ワーク・ライフ・バランスには、大きく3つの目指すべき姿があります。**

まず、「**就労による経済的自立が可能な社会**」、2点目として、「**健康で豊かな生活  
のための時間が確保できる社会**」、3点目として「**多様な働き方が選択できる社会**」  
です。本日の座談会は、主に3点目の「**多様な働き方が選択できる社会**」をテ  
ーマとしています。ワーク・ライフ・バランスという言葉自体がとても広い意味を  
持っているわけですが、「就労が可能な自立できる社会」とは、経済的自立を必要  
とする者、とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ、経済的に自立可能  
な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済

基盤が確保できる社会です。

つまりは、誰もが働ける社会にしていくことが大切で、一部の人に仕事が片寄る、一方で、仕事がない人々が増えるのではなく、就労を希望するすべての人が仕事に就くことができ、経済的にも自立していきいきと生活できることが大切だと思います。

**「健康で豊かな生活のための時間確保ができる社会」とは、働く人々の健康が保持され、家族・友人などとの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などを持てる豊かな生活ができる社会**です。

残業が多いなど労働環境が悪くて、うつ病になったという相談を受けることがありますが、**健康で働き続けられることが大切であり、仕事と生活のバランスが必要**だと思います。

**「多様な働き方・生き方が選択できる社会」とは、性別や年齢にかかわらず、誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択**でき、しかも公正な処遇が確保されている社会です。

私たちは、**子育てや介護など、仕事以外も大切な役割を担っており、これらの時間を確保できるように柔軟な働き方が選択できるような社会**にしていく必要があります。

## ▼子育て世代の日常生活▼

司 会：それでは、皆さんの**1日の生活状況**をお聞かせ下さい。

Dさんの1日はいかがですか。

### ～子育て世代が期待する支援策～

Dさん：勤務時間は9時から17時30分までで、7時間30分の勤務です。

保育園など子どもの送迎は基本的に私がやっています。夕方は、保育園に娘を迎えに行ってから、息子の学童保育へ18時までに迎えに行きます。車で迎えに行きますが、時間に追われ、焦って事故を起こしてしまうのではないかと思う時があります。私たちの地域は、学童保育の時間が18時までですが、他の地域によっては、学童保育の時間が19時までというところもあります。

フルタイムで働く人にとっては、18時は早すぎると思います。雨が降っている場合などは、18時までに迎えに行くことは本当に難しい状況があります。

また、私がどうしても残業しなければならない時は、夫に協力してもらっています。夫の勤務形態がフレックスタイムなので、少し早めに仕事を切り上げ、子どもを迎えに行ってもらったり、朝遅い場合は、送ってもらったりしています。また、私の職場にもこのような状況を理解していただいております、終業時間ギリギリに電話がかかってきても同僚に出てもらい仕事をあがらせてもらっています。

子どもたちは、休日でも規則正しく朝の6時半には起きてしまうので、金曜の晩にパンを買い込んで、それを朝、子どもたちに食べてもらい、私は10時位まで寝ています（笑）。

天気がよければ、週末は家族で自転車を乗りに行ったりとか、日立海浜公園まで足を延ばしたり、楽しく過ごしています。

**司 会**：学童保育に関しては、皆さん関心が高いようですね。

Bさん：Dさんの地域の学童保育は、18時までなのですね。それぞれの家庭の働き方によって、18時だと迎えが難しいこともありますね。

Dさん：学童保育は、現在、小学3年生までですよ。子どもの成長に個人差があるので、個人的には、10歳になる4年生まで見てもらいたいという思いがあります。

Bさん：「**小1ギャップ**」という言葉がありますね。うちの子も、**小学校に上がったら、学童保育後に誰に子どもを預けるかなど、色々と考えなくてはならない**と思っています。

**司 会**：学童保育については、子どもたちが、放課後を楽しく安全に過ごすとともに、保護者が安心して仕事をするなどを中心に、各地域のニーズを捉えて地域が運営し、宇都宮市全域で実施しているところであり、**より柔軟な運営が期待される**ところです。

Dさん：話は変わりますが、「**短時間勤務制度**」がありますよね。今は、**未就学児を養育する勤労者に限定**されていて、小学校に上がると認められていません。でも小学生になっても、まだまだ子どもに関わってあげたいという思いがあります。「短時間勤務制度」を小学3年生位まで拡充するなど、**国や自治体には柔軟な働き方ができるようもっと支援をしてもらいたい**という思いがあります。

**司 会**：働きながら子育てをするには、実家など頼れるところがある場合、働き易いかもしれませんが、頼ることができないことを前提とした場合は、まだまだ環境としては厳しいところがあります。Bさんの1日はいかがですか。

#### ～ご近所ネットワークの支え合い～

Bさん：勤務時間は、10時から18時です。ただし、残業が恒常的にある職場です。子どもがいない時は何時まででも仕事をするのが当たり前でした。

朝は、7時頃に起きて、子どもを送っていくのは、私と妻で1週間交代です。送っていかない方が夕飯の準備をして、レンジで暖めれば良いように準備をします。基本的に、迎えは月・水・金曜日が妻で、火・木曜日が私です。もちろん、お互い都合の悪い日があると調整をしています。

子どもが通っている保育園は、延長料金を払えば最長21時まで預かってくれますが、そこまでの子どもはいないので、迎えに行く当番の時は、18時過ぎに

は、妻も私も職場を出て迎えに行くようにしています。休日は、公園などに行っています。

私は、育児休業をとりまして、子どもが1歳になる直前の3カ月、制度を活用しました。会社で初めて男性が取得し、今のところ、その後の取得者はいないのですが、基本的に、妻が同じ会社なので、給料でも何でも同じですから当然だという思いで取得しました。

また、突発的に仕事が入った場合は、私たちの実家が宇都宮周辺にあるので、車を30分走らせれば頼ることもできます。

先程のDさんのネットワークではないですけど、**近所のネットワーク**がありまして、分譲地で7軒くらいが同じ時期に入居し、同じ位の年代が集まっており、**お互いの子どもを預けたりしています。**

**司 会**：地域のつながりは大切ですね。

Bさん：**近所のネットワーク**に支えられています。住宅地の造りが良く、車が進入してこない造りになっているので、みんなが集まり井戸端会議ができるようになっています。

**司 会**：奥さんとの分担制は、いつから始めたのですか。

Bさん：子どもを保育園に預けた頃、妻と話し合い、今の分担になっています。育児休業から復帰直後は、私は夜勤だったので、16時位に出勤して、深夜に帰宅というシフトで、必ず妻が保育園に迎えに行くという状況でしたが、その後、二人とも同じ10時から18時勤務になったので、分担しました。

**司 会**：Bさんも夕飯を作ったりしますか。

Bさん：作りますけど、今の時代、そんなに驚くような事ではないと思います。

Eさん：当たり前のように、料理ができるなんて素晴らしいですね。

Bさん：褒められると快感です。学生時代は1人で料理を作っていたので普通だと思います。ただ、洗濯物をたたむのと子どもの爪切りは妻しかできません（笑）。その代わりではないですが、私は洗濯物を干すなどの役割を担っています。

Dさん：話し合いで、きちんと解決しているというのは良いですね。

Bさん：暮らしているうちに、妻との役割分担が自然とできました。

Eさん：女性が10人居たら、10人ともうらやましいと言うでしょうね（笑）。

**司 会**：Cさんの一日はいかがですか。

#### ～時間を有効活用して新たな時間を生み出す～

Cさん：Bさんの状況と似ていますが、うちの場合は、結構いい加減です。夫婦ともに、基本的に役割を決めていません。ただ、毎日、夕方にメール交換して「今日はどうする？今日は私が帰れそうだから帰る。」など対応しています。

Bさん：結局、自然と分担ができていますね。

Cさん：結果的には、そうかも知れません。

Bさん：事前にメールで打ち合わせをされていて、柔軟に対応しているんですね。

Cさん：そうですね。私たち夫婦の性格上、役割を決めたら1ヶ月もたないと思います。  
今の私の仕事は、システム開発などで残業が多く、週の何日かは子どもの寝顔しか見られません。私と妻の性格がちょうど合っていて良かったなと思います。  
私は、朝早いのが得意なので、休日は、子どもを起こして公園などに行ったりしています。

**司 会**：奥さんが1人になれる時間を作ってあげることは大切ですね。

Cさん：休日の午前中は、妻の自由な時間です。

先程、朝が得意と言いましたが、休日は、起きるのが本当に早く、日の出とともに目が覚めます。みんなが寝ている時間は、私にとってはとても重要な時間で、自分のやりたい事は、その時間で全部やります。休日は、途中で眠くなっても仕事ではないので、居眠りしても問題ありません（笑）。

**司 会**：朝の時間の有効活用は良いアイデアですね。

Cさん：学生時代に部活をやっていたので、早起きする体質ができたのかなと思います。  
朝の時間の活用は、朝が苦手な人には、参考にはならないかもしれないですけど、自分の時間を作り、そこで色々な本を読むなど、子育てや仕事以外のことで得たものは、自分の生き方にちょっとずつプラスになっているのかなという思いがあります。朝の時間を大切にすることは、今後も続けて行きたいと思います。

**司 会**：子どもが生まれると、**子育てや仕事など、「しなければならない時間」はどんどん増えてきます**。自分の好きなことをしても良い時間、**自由になる時間の確保は、生活のエネルギー源**としてとても重要だと思います。それをどう確保するかは工夫次第なのかも知れません。

Eさんの1日はいかがでしょうか。

Eさん：平日の朝は、6時半位に起きます。夜は、子どもは21時位に寝て、私は24時ぐらいに寝ることが多いです。特に出かける予定がない土・日曜日の朝は、10時位まで寝ている時が多い状況です（笑）。

**司 会**：休日はお子さんと、どのようなところに出かけますか。

Eさん：私は離婚しているのですが、子どもの父親が東京にいるので、月に1・2回は父親のもとへ連れて行っています。  
宇都宮にいる時は、平日に子どもを預かっていただいているところへ泊まりに行ったり、公園に出かけたりしています。2家族で子ども3人を育てている感じです。

**司 会**：2家族で子ども3人を育てるとするのは楽しそうですね。

Eさん：どちらの家族も実家が近くないという同じ状況にあることや私としては、「うちの子は、1人っ子なので、色々な人と関わらせたい。」という思いもあります。

1人親家庭でも、2人子どもがいる場合だと、子ども同士遊んでくれるので、家のことをやる時間が確保できますが、1人っ子だと休日に家のことをしたくても、子どもが遊んで欲しいということもあり、なかなか家のことができないこともあります。

子ども同士一緒に遊んでもらっているので、親としてはすごく助かっています。

**司 会**：子ども2人の方が、親の時間が確保できるというのは意外でした。

Eさん：お金は2倍かかりますが、手間はあまりかかりません（笑）。

Dさん：親がいないと眠れない子どももいますが、子ども2人だと一緒に先に寝てくれます。年が近いとケンカも多く、どちらかが泣くまでケンカしていますけどね。

Bさん：うちは双子なので勝負がつかなくて延々とケンカをしています。

最初は2倍手間がかかったのですが、だんだんと成長してきて、2人で話をしたりとか、ごっこ遊びとかをしている時に、家事をやっています。

**司 会**：子どもが2人になると、子育ての労力は2倍になるということではないということですね。Aさんの一日はいかがでしょうか。

#### ～どんどん広がるお父さんの活躍の場～

Aさん：農家なので、時期によっては、早く起きなくてはならない時がありますが、平日の朝は、私も子どもも7時くらいに起きます。私が起きたら、子どもたちのトレーニングパンツなどを交換して、妻が用意したご飯を食べさせ、歯磨きやトイレに行かせて仕事に行きます。仕事から帰ってくるのは、いつも20時位です。ちょうどお風呂から子どもが出てくる時間なので、着替えや歯磨などを手伝い、ちょっと団欒してから、妻が寝かせます。これが、我が家のパターンです。

私はアウトドアタイプで、妻がインドアタイプなので、休日は、私が子どもと公園で遊んだり、自転車を乗らせたりしています。その時間に、妻が家のことをしています。

収穫時期などは、朝4時に起きて作業をして、家に6時位までに帰り、それから、仕事に行く準備をして出かけます。そして、20時頃に仕事から帰ってきて、子どもの世話を手伝い、その後、収穫作業をして、21時くらいに収穫したものを袋詰めして、直売所に持って行き、帰ってくるのは、23時位です。収穫時期は、このようなことが続くので、仕事で居眠り運転をしないよう、睡眠を確保するため、子どもとは別に寝させてもらっています。

**司 会**：収穫時期は、作業をしてから仕事に行くのですね。



Aさん：朝の作業をしてから、何事もなかったように、普通に仕事に行きます。

Dさん：すごいですね。

Aさん：収穫時期はこのような生活が続き、平日は、子どもが寝ているうちに外に出て、帰ってきた時は寝る時という状況ですので、子どもは、あまり遊んでくれない父親と思っているのではないかと思います。

こういう状況で、休日に「パパ一緒に遊んで。」と子どもにせがまれると、結構キツイ時があります。休日には、「自分の体を休ませたい。」という思いと、「子どもと遊ばなければ。」という思いで、どうしていいのかわからなくなることがあります。このようなことで、妻と口論することがありますが、結局、休みの時しか子どもと遊べないのだから、遊んでくれということになります。

Cさん：休日は、公園で子どもと遊ぶお父さんが多いですよ。

Aさん：最初は、子どもを公園に連れて行くのは私がすることじゃないような気がして、嫌でしたが、実際、行ってみるとお父さんが多いので、連れてきて良かったという気持ちになります。「勝手に、公園には、お母さんしかいないというイメージを持っていただけだった。」のです。

司 会：私の父親も、仕事が忙しくて、家にいるのは日曜日だけの生活だったこともあり、やはり、父親が子どもの世話をするというイメージがなかなかわからないので、Aさんの気持ちがわかります。しかしながら、今は、私自身子どもが生まれたので、かわいい我が子と遊んでやりたいですし、遊んでやろうと思います。

Aさん：私の仕事の状況や妻が子どもの世話をほとんどやっていたこともあり、子どもが私の言うことを全然聞かない時期がありましたが、最近では、保育園へ入園して外で遊ぶ楽しさを知ったので、父親の活躍の場がでてきました。

司 会：子どもにとっても、休日は「父親と遊べる楽しい時間」という気持ちがあるのかもしれないですね。

私自身の1日ですが、私の仕事が忙しいことや妻にとって初めての出産ということがあり、妻は茨城県の実家に里帰りをしております。私はそこから宇都宮に通勤をしていますが、どうしても仕事が遅くなる時は、私の宇都宮の実家に帰ります。

子どもは、現在、生後5ヶ月になりますが、私の出番は、仕事から帰ってお風呂に入れることです。

私としては、職場の仲間に「子どもをお風呂に入れるから早く帰るよ」と言えるのは、カッコ良いことと思っています。職場でも、「子育てしていて楽しそう。」という感じを伝えていけたらと思っています。

今までは、結婚して子どもがいなかったのですが、ワーク・ライフ・バランスについては、言葉から入ってしまいましたが、子どもが生まれて、現実的なものになり

ました。今は妻が実家にいるので安心ですが、妻の育児休業期間が明け、職場復帰したら、**どのように仕事と子育てを両立していこうかと考えています。**

### ▼仕事と子育てを両立するための工夫▼

司 会：それでは、**仕事と子育てを両立するために工夫をしていること**をお聞かせください。

Cさん：独身の時や子どもが生まれる前は、あまり時間を気にしないで残業をしていましたが、**子どもが生まれてからは、私と妻のどちらかが学童保育に迎えに行かなければならないので、必要に迫られてではありますが、「集中して仕事に取り組む姿勢、効果的に仕事を行うという意識」が自然と身についた**と思います。

司 会：私も子どもが生まれてから「**T O D O（今日何をするか）リスト**」を作ることになりました。自分が今日何をするということを思いついたら書き出して、順番を付けて、それを消すことを楽しんでます。その結果、**だいぶ短時間で仕事をこなすという集中力がついた**と思います。

私の場合は、やらなければならないと思っても、なかなかスイッチが入らないこともあるので、書き出す事でスイッチを入れ、何時から何時までにこれをやろうという意識になります。

Cさん：書き出すと今日やらなければならないのか、明日でも良いものなのか、結構、明確になってきます。このやり方はお薦めです。

Dさん：書き出すことは、私もよくやります。忘れないようにというのもあります。

Bさん：子どもが生まれて**メリハリを付け、効率的にやる**ようになりまし、残業ができる日には集中して仕事を片付けるようにしています。また、自分ができるとできない事を正直に周りに伝えるとか、優先順位や段取りを付けるとか、**時間を有効に使おうという意識**は独身時代に比べるとずいぶん高まっていると思います。

Aさん：独身の時は、気分次第で仕事をこなし、明日も大体のスケジュールでやっていました。子どもが生まれてからは、子どものことで何が起こるかわからないので、スケジュール管理や優先順位化をしたり、空いている時間の効率的な使い方を考えるようになりまし。自分だけのことを考えていけば良いというのではすまなくなつたという状況です。

Bさん：**子どもが生まれて**、ある意味「**時間は有限！**」なのだと強く感じています。

Aさん：時間が空いたら、色々なことをやりたいと思う一方で、一見無駄と思えるような自分の休憩の時間も確保したいという思いもあります。

Cさん：休むというのも大切な目的の1つで、目的のために使う時間と考えると良いのではないのでしょうか。

Dさん：私は、子どもが生まれて、スケジュール帳を持ち歩くようになりまし。

Aさん：私も子どもが生まれる前は、手帳を持ち歩かなかったのですが、最近、特に**幼稚園の行事など子育てと仕事のスケジュールの両方を手帳に書いて一元管理**し、持ち歩いています。

### ▼仕事をしながら子育ては大変▼

司 会：現在の**社会環境の中で、子育てをする大変さ**など、お聞かせください。

Cさん：子どもが小学校にあがると、PTAとかの集まりがありますよね。私の子どもが通う学校では、平日の昼間に集まることもあり、参加が難しい状況の時があります。

Eさん：今では、共働き世帯の方が多くなってきているので、昼間の集まりは難しい人も多いですよね。

Bさん：うちの妻は、今年度、保育園の役員をやりましたが、保育園の保護者は皆働いていますから、19時頃から役員会が始まります。

Bさん：小学校の保護者には、片働きの人も共働きの人もいるわけだから、両方の状況を考えた上で、夜や休日に開催するなど、より多くの人が集まれる時間帯に開かれると良いですね。

Dさん：私は長男が幼稚園に入園したのをきっかけに働き始めました。最初は幼稚園で、時間を延長して子どもを見てもらえればと思っていましたが、その幼稚園は時間の延長がなく、幼稚園の後に保育園に預けていました。幼稚園の集まりの場合は、平日の昼間に集まることが多くて、私が参加できない時は、夫に参加してもらっていましたが、周りはお母さんばかりで、少しやりづらいということもあったようです。その後、幼稚園を退園し、保育園だけにしました。幼稚園でも延長保育をしているところもありますが、共働きだと幼稚園に子どもを預けるのは難しいと思いました。

司 会：**片働きから共働きへと働き方が変わってきている状況で、それを支える社会の意識やシステムは、まだ対応しきれていない**と思います。片働きが主流であった時代のものが、そのまま残っているのかもしれませんが、**共働きが増えてきている状況を踏まえ、もう少し柔軟な社会に変えていく必要がある**と思います。

Cさん：最近では、**色々な子育て支援制度が整備されつつあります**が、制度の拡充はもちろん、国や地方自治体には、「**いかに活用しやすい制度にするか。**」を考えてもらいたいですね。

司 会：本当にそのとおりですね。より多くの方が自分の望む子育てを叶えられるような制度があってほしいものです。さて、子育て支援制度の話題が出ましたが、制度や仕組みがあっても、私たちがそれを使いこなそうとする意識がなければ、なかなか制度が生かされないということも言えるかも知れません。ワーク・ライフ・

バランスの話をする時に、「結局、経営者次第」と話が終わったら、とても残念です。実際に、組織の中で、どれだけ周囲の理解を得ていけるか、先程Bさんが「自分ができないことはできない。」と周りに伝えるとおっしゃっていましたが、「断る力」を身につけていくことも大切です。「自分は、申し訳ないが、子どもの迎えがあるから、今日はここまでしかできない。」と言うことは、まさしく従業員側からの変革の一步であるのかなと思います。

Bさん：実際、子育て中に仕事で無理をすると、自分自身もつらくなり、周りに迷惑をかけることもあります。時代が変わりつつある中で、**私たち子育て世代**が、もう少し、**仕事と子育てが両立できる社会**へ向けて、**行動できれば、仕事も子育てもどちらも大切だ**という風潮がさらに広がっていくのではないかと思います。

### ▼「おたがいさま」の雰囲気づくり▼

司会：会社の中で、大切にしていることや工夫していることなど、お聞かせください。

Aさん：**職場の中での助け合いが大切**だと思います。

経営者や上司の方たちの時代は、「子育ては女性のするもの。」という時代だったのだと思います。男が子育てをするという意識がなかったわけですね。

司会：「24時間働けますか。」という世代ですね。

Aさん：私は、**職場の仲間と上司の理解があれば、育児のための制度はもっと使いやすくなる**と思います。

Bさん：子育て支援制度がさらに充実して欲しいというのにはありますが、現時点で多くの人は、**今ある制度を使いこなせていない・使えない状況にある**のではないかと思います。私の会社でも「短時間勤務制度」を使っている人はいないですし、育児休業の取得も男では私1人だけです。

Aさん：その後、男性社員の方でBさんに続いて育児休業を取るという人はいますか。

Bさん：対象者自体が少ないということもありますが、今のところはいないです。

Cさん：これからの企業には、**子育て支援制度を活用できるような社内環境づくり**に取り組んで欲しいですね。

Aさん：制度の活用が進めば、少子化の解消にもつながるのではないかと思います。

私の会社では、子育てもしやすい環境づくりが進んでいると思います。子どもを幼稚園へ迎えに行かなければならないとか、熱を出してしまったので2時間休暇をもらえないかなどを上司に相談すると、「事故だけ起こさないように。」と融通を利かせてくれます。

司会：上司との関係は重要ですね。

Aさん：**上司とのコミュニケーション**には、普段から気を使っています。また、私自身が上司を含め周りの人に対して役に立つよう心がけることで、逆に、上司や周囲の

人が、私の願いを聞いてくれるように感じます。上司や周囲の人と良い関係を作れば、仕事も子育てもやりやすくなります。

Cさん：上司とも、ざっくばらんに話ができれば、「あなたの子も今度小学校上がるよね。入学式はいつ。」とか「インフルエンザがはやっているけど、あなたの子どもの学校は大丈夫なの。」など子どもに関する話が自然とできます。こんな職場の雰囲気って良いですね。

司会：勇気を出して、家庭の話を自ら言うことも大切ですね。

Bさん：どのような生活をしているかがわからないと、その人の家庭に何かあった時に、理解も共感もできない場合があります。私は、できるだけ我が家の状況が想像つくように言うようにしています。

Aさん：日頃から周りに伝えていけば、受け止めてくれますが、突然言われたら、受け止められないこともあります。

Bさん：携帯の待ち受け画面とかを見せて「うちの子です。」とか（笑）。

Eさん：会社ってチームで仕事しているという意識が重要だと思います。

司会：会社でのチームワークは、とても重要だと思います。1人ひとりがチームに貢献することは当然ですが、逆にチームに助けられる場面も多くあるわけです。個人で仕事しているということではなく、チームの1人として仕事をする意識が大切です。良いチームにするために、自分自身も働き方、気の使い方などに注意し、お世話になったらきちんと恩返しをすとか、そういった日々の努力があって、周囲の人も暖かく支えてくれるので、職場における「おたがいさま」の雰囲気づくりが大切だと思います。子どもが体調を崩して休みを取りたい時も、周囲の理解を得られやすくなります。仕事をうまく進めつつ、子育てと両立させる意味でも、制度や仕組みだけではなく、日頃からの何気ない職場でのコミュニケーションはとても大切だと思います。

Dさん：私は、1月の後半に新型インフルエンザにかかってしまい、1週間会社を休んでしまいました。実は、そんなに会社を休めるとは思っていませんでした。会社に行けるようになってから、その分しわ寄せがありましたけど（笑）。

Aさん：会社は、仕事に穴が開かないように、いざとなるとどうにか対応するものだと思います。

Cさん：社員がいざという時、安心して休めるということも良い会社の1要素であり、また、職場がチームとして機能しているということにもなります。

司会：安心して休みを取らせてもらえると、会社に対して愛着がわきます。そういうものを感じると「離職率が下がる」、「企業の戦力も落ちない」などの好循環が生まれるのではないかと思います。

仕組みがあるだけではなくて、使えることが重要で、そのためにも、**普段から自分たちのチームを大事にしていく**ことが大切ではないかと思います。

また、皆さんの話を聞いて思ったのが、「今日、参加している皆さんは、会社で上手にプライベートの話をしているのかな。」ということです。まだまだ一般的には、プライベートと仕事が、切り離されているのではないかと思います。ワーク・ライフ・バランスもそうですが、**ワークとライフを分けて考えるのではなくて、仕事の中においてもプライベート部分はとても密着**していて、職場で、「子どもがもうすぐ生まれる予定。」とか「おばあちゃんが認知症で介護している。」とか、家庭の話ができると、もう少し会社の中の見方がかわるのではないかなと思います。それが、「職場では仕事の話以外はしない。」という雰囲気になってしまうとギスギスしてしまいます。

Eさん：スポーツの世界では、チームワークで勝敗が決まることが多くあります。それと仕事も同じですね。

Cさん：確かに、スポーツの世界では、個々の能力が高い人間を集めて勝てるかというところと勝てないことがあります。

**司 会**：それぞれ弱点があるとそれを補ってチームとして、結束力が強くなります。

Eさん：スポーツの世界なら勝負が明らかですが、ビジネスだと分りづらいですね。

Aさん：経営者側からすると売上とか数字が結果ということになりますが、私たち働く側からすると、仕事にやりがいを見出して働いているので、数字だけで評価されるとつらい部分もあります。

**司 会**：従業員と経営トップが近ければ近いほど、伝わるものがあるのではないかと思います。従業員と経営トップとの間に階層を作りすぎているという気もしています。管理することを前提に組織を捉えれば、いくつもの階層がある組織構造になるだろうと思いますが、会社として1人ひとりの人材が重要なのだという捉え方をすれば、管理ではない人材のマネジメントとして評価できると思います。その価値観は、あまり研究がされていないところもあり、説明するには、まだデータが少ないと思いますが、私たちの意識の中では大切だと思っています。

Aさん：**会社が面白いとプライベートも充実**します。**仕事のストレスを家庭に持ち帰らなくても良くなり、仕事と家庭生活の好循環が生まれる**と思います。

Aさん：皆さんは、**ストレスを家に持ち帰らない**ようにしていますか。

Dさん：夫婦で仕事をしていると、愚痴を言いたい時も「夫に悪いかな。」という思いになり、子どもが寝た後、お酒を飲んでストレス解消していることもあります。

Aさん：私は、妻に愚痴を言おうとすると、逆に子どもに関しての愚痴を言われ、お互い意見が対立してしまうこともあるので、なるべく言わないようにしています。

司 会：ストレスのはけ口は必要で、聞いてもらえる人がいるということはとても大切だと思います。

Aさん：例えば、職場の中に家庭の愚痴を聞いてくれる人がいて、自分は家庭に帰って、妻の愚痴を聞いてあげ、私も妻もストレスがなくなればすごく良いと思います。

### ▼これからのお父さん、お母さんになる人たちへのメッセージ▼

司 会：最後に、**これからのお父さん、お母さんになる人たちへのメッセージ**を1人ずついただければと思います。

Aさん：子育てをしている最中ですので、辛いことも多いですが、**子どもの笑顔は宝**です。

Cさん：**子育ては辛いことももちろんありますが、そこに楽しみを見出していくようにしています。**子どもは、どんどん成長していきますから、**自分の赤ちゃんを抱けるのは、赤ちゃんの時だけ。「今」やらなければ、後でやりたいと思ってもできません。**自分の子どもをみるのは、「今しかないのだ。」と思い、そこに楽しみを見出しながら子育てをすると、辛いことも、それほど辛くないと思います。

Bさん：何人もの子どもを作りにくい今の時代、子育ては、その時を逃したらできません。仕事はいずれ挽回できると思います。育児など自分がやりたいことをやれるように、努力してほしい。**やらずに悩むのであれば、自分のやりたいことをやるために、苦労したり、悩むほうが良い**のではないのかなと思います。ある意味戦いみたいな部分もありますが、そういう姿勢が必要かなと思います。

Dさん：**子どもの話をできる人や機会を多く持つ**ことで、親の悩みやストレスの解消につながりますので、**出会いや機会を大切に**してください。

Aさん：仕事が忙しくて、1週間ぶりに子どもと話した時、大人みたいな言葉を使っているということがあり、**子どもの成長は早い**と感じます。私にとってはとても新鮮でうれしい出来事です。

司 会：毎日一緒にいると、**子どもの成長や変化が当たり前のような感覚になってしまう**ことが多い中、「**子育ては、今しかできない**」という気持ちを持つことは、とても大切だなと思います。

Cさん：実は、親は皆その気持ちを持っているのだと思います。運動会とかに、自分の子どもばかり写真やビデオで撮っていますが、「この一瞬を逃すな！」という気持ちで撮っています。これと同じだと思います。

Aさん：しかも自分の子どもしか追わないです。ビデオに写っているのは、ほんの1分ぐらいですが、その後スクラップ集を作ったり、**親は子どもの「最大のファン」**です。

Eさん：子どもが生まれる前は、「子育ては、すごく大変だよ」と周りから言われ、少し気

が重かったのですが、生まれてからは、**日々の子どもの成長が実感でき、子どもと一緒にいると「楽しいじゃない！」**と思うことがたくさんあります。大変なことばかりが強調されますが、**辛いことより楽しいことの方がはるかに多い**ことを感じて欲しいです。

Aさん：仕事が続き、体が疲れている時は、子どもと遊ぶのがいやだな、面倒くさいなど思ってしまうこともあります。子どもに対して精一杯の時は、楽しさを気づけないこともあります。そんな時でも、場面・場面で楽しいと思うことがあります。例えば、子どもが自転車に乗れるようになった時に、この後、一緒に自転車で出かけられるようになると考えると、**子どもの成長とともに楽しみが、どんどん増えていく**ように思います。

しかし、自転車に乗れるように教えている時は、「何でいったとおりにできないんだろう。」「同級生の何々ちゃんは、何時間で乗れるようになったのに。」とか、親としての不安や焦りで精一杯な時は、「楽しい、楽しむ」ということを忘れていることもあります（笑）。

Bさん：結構、子育てをしながら、**親の我慢力・忍耐力が培われる**部分があるように思います。

Cさん：**子育てしながら、親も成長する**のだと思います。

Bさん：子どもの成長を見ていると、子どもと私がそっくりと周りから言われるのですが、「自分もこうだったのだ、こんな感じで育っていったのだ。」と思うと面白いです。

司 会：楽しみ方が面白いですね。自分も小さい頃、親の手を煩わせていたのかと思って自分の子どもをみていると、「母ちゃんすまね～な」という気持ちになります（笑）。

Cさん：結局、子育ては楽しいことが多く、辛いことは意外と少ないのではないかと思います。

### ▼座談会のまとめ▼

司 会：「今日は本当に初対面かな。」というくらい、皆さんと色々な話ができかなと思います。

今日の話をまとめますと、まず、**子育てや家庭での話をできる機会や場所がもっとあると良い**なと思いました。なぜかといいますと、家の中の話をするということで、共感し合えるようになり、安心してつながれるというか、付き合いができるのではないかと思います。皆さんとこうやって話をすると、もっと話したいこともあるし、聞いて「なるほど。」と思うこともあります。このような機会自体とても重要で感じています。

また、子育てをするときに、「**今を楽しむ」「その瞬間、瞬間を楽しむ**」という**気持ち**が、とても大切だと思います。仕事と子育てが充実していた方が、より一層人生を楽しめると思います。そのために、**個人はもちろん、会社、地域、家族、**



社会全体がワーク・ライフ・バランスの意識を持ち、取り組むことが重要だと思います。将来社会に出る子どもたちのためにも、仕事と子育てが両立できる社会の実現に向けて、私たちが少しでも風穴をあけて、社会の流れを変えていければと思います。